



平成 23 年 3 月 7 日 月曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
(奈良県保健環境研究センター内)
N a r a I D S C



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 五條市における鳥インフルエンザについて～感染症情報センターより～ **NEW**
- 奈良県インフルエンザウイルス検出状況 **NEW**
- 奈良県ノロウイルス検出状況 **NEW**



(調査週) 平成 23 年 第 8 週 2 月 21 日 (月) ～ 2 月 27 日 (日)

奈良県および二次医療圏別発生状況 (奈良県上位 5 疾患) (5 週前からの動向)

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	インフルエンザ	8.44	→～↓	→～↓	→～↓	→～↓
2	感染性胃腸炎	5.60	→	→	→	→～↓
3	水 痘	1.23	→	→～↑	→～↓	→～↑
3	A 群溶連菌咽頭炎	1.23	→	→～↑	↑	↓
5	伝染性紅斑	0.89	↑	↑	→～↑	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は 438 例で、前週報告の 447 例からほぼ横ばい。上位 5 疾患は、①インフルエンザ、②感染性胃腸炎、③伝染性紅斑、④水痘、⑤A 群溶連菌咽頭炎の順。伝染性紅斑の報告数（28 例）は、急増。水痘の報告数（26 例）は、やや増加。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（15 例）も、やや増加。感染性胃腸炎の報告数（104 例）は、ほぼ横ばい。インフルエンザの報告数（239 例）は、減少。なお、インフルエンザの定点報告の内訳は、奈良市 HC 管内；124 例、郡山 HC 管内；115 例だった。奈良市 HC および郡山 HC 両管内基幹定点からの報告はなかった。また、郡山 HC 管内眼科定点から、流行性角結膜炎が 1 例報告された。（村井 記）

県北部外来状況：インフルエンザの流行が 1 月末から徐々に落ち着いてきた。2 月中旬頃は B 型が優位となっていたが最近では A 型が再度増加している。インフルエンザが減るとウイルス性感染性胃腸炎の流行が目立つようになった。以前は 10 歳以上が多かったが、最近では幼児にも拡大している。ロタウイルスはまだあまりみられない。季節に関係なく咽頭結膜熱、ヘルパンギーナがみられる。伝染性紅斑もよくみられ、保護者も感染し子供より重い症状が出現している（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は、351例から312例と減少した。上位5疾患は、インフルエンザ、感染性胃腸炎、A群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱および水痘であった。インフルエンザは172例と減少傾向であり、中和地区の定点報告数は桜井保健所5.82、葛城保健所9.82と、両保健所とも10を下回った。感染性胃腸炎は78例と横ばいである。眼科定点からは、流行性角結膜炎2例の報告が桜井保健所よりあった。基幹定点からの報告はなかった。 (高木 記)

県中部外来状況：外来数は横ばい。インフルエンザAは減少してきたが、B型が増加傾向。症状は38~38.5度程度の短期間の発熱で、全身症状なく軽症例が多い。家族内感染は少ない。A型に比べて呼吸器症状が少ない印象嘔吐、下痢の例で発熱を伴う紛らわしい例があり、迅速検査を実施するが、陰性で、ノロ様?と思われる感染性胃腸炎が流行中。家族内感染が見られる。ノロウイルスの4歳男児があり、翌日には1歳妹が発症。流行はなく散発。乾性咳嗽の多い百日咳様の3人の兄弟があったが経過観察中。他に、水痘、伝染性紅斑、ヘルパンギーナが僅か。 (岡本 記)

県南部地区概況 報告数(第7週→第8週)は64例→79例と推移。報告のあった疾患は、①インフルエンザ(34例→53例)、②感染性胃腸炎(17例→14例)、③水痘(1例→6例)、④A群溶連菌咽頭炎(11例→5例)、⑤百日咳(0例→1例)。 (柳生 記)

県南部外来状況：外来数は減少した。インフルエンザは第7週から急減したものの横ばいで続いている。A型が主であるがB型もまだ少し散見される。ウイルス検査の結果の報告があったが、1月下旬第4週頃からのN小学校の1年、6年各1例でA/H3N2、2年1例でA/H1N1pdm、2月上旬第5週のO保育所とG幼稚園児各2例と1例でA/H3N2であった。昨シーズンにも当院で迅速A型陽性であった3例のうち、2例がA/H3N2であったが、1例はA/H1N1pdmで2シーズン続いたのA新型罹患例と考えられた。感染性胃腸炎は多くない。その後ロタは認めず、カンピロバクターあり。A群溶連菌咽頭炎が引き続き多い。両親への家族内感染例もあり、検尿で糖陽性を認めⅡ型糖尿病が見つかった例があった。小学生6年生の百日咳例(DPT接種済み、ワクチン株×80倍、流行株×1280倍)があった。家族内感染(祖父母→姉、母→患児)と推定された。アデノウイルス感染症もあった。 (山本 記)

【五條市における鳥インフルエンザについて～感染症情報センターより～】

2月末に五條市の養鶏場で A/H5 亜型鳥インフルエンザが発生しました。県では「奈良県高病原性鳥インフルエンザ防疫対策本部」を設置し、すでに養鶏場では全羽の殺処分および埋却といった防疫措置を取っています。現在のところ、他の養鶏場や野鳥への拡大はみられていません。また、養鶏場での作業にあたった人がインフルエンザ様の症状を示した場合には、直ちに保健環境研究センターで遺伝子検査をすることになっていますが、これまでにそのような事例はありませんでした。

トリからヒトへの感染は極めて稀で、感染したトリ（死骸含む）や排泄物との濃厚接触がある場合に限られています。卵や鶏肉を食べて感染した事例もなく、内閣府食品安全委員会では鶏肉や鶏卵は「安全」とする見解を示しています。

（参考）

◆ 奈良県 <http://www.pref.nara.jp/>

◆ 国立感染症研究所感染症情報センター <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>

◆ 内閣府食品安全委員会

http://www.fsc.go.jp/osirase/tori/tori_iinkai_kangaekata.pdf

◆ 厚生労働省「鳥インフルエンザ」

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou02/index.html>

（感染症情報センター 記）

奈良県インフルエンザ検出状況

平成 22 年度奈良県感染症発生動向調査事業
平成 22 年度新型インフルエンザ対策事業

表. インフルエンザウイルス検出状況 (採取日別、上段: 新型、下段: 季節性)

採取週	平成22年 第52週まで	第1週 1/3~1/9	第2週 1/10~1/16	第3週 1/17~1/23	第4週 1/24~1/30	第5週 1/31~2/6	第6週 2/7~2/13	第7週 2/14~2/20	第8週 2/21~2/27	総計
北和	奈良市	88 14		5	3	2	3			101 14
	大和郡山市	12 4			1					13 4
	天理市	12 2								12 2
	生駒市	14 7								14 7
	山添村				1					1
	平群町	1								1
	三郷町	3		1						4
	斑鳩町	1 2								2 1
	安堵町	1								1
	中和	橿原市	19 8	1				1		
桜井市		8 3					1		1	10 3
宇陀市		1					1		1	3
川西町		1								1
三宅町		1								1
高取町		1								1
大和高田市		5 39			1					6 39
御所市		3 5	1	1	1	4	2	2		14 6
香芝市		8 6			1					8 6
葛城市		4								4
上牧町		3 1								3 1
王寺町		1								1
広陵町		5 1				1				6 1
河合町		1 7								1 7
南和	五條市	1	1	4	1	2	1	2		8 6
	十津川村			4						4
	大淀町			1						1
	下市町	2 2								2 2
天川村				2					2	
他	5 5	1							6 5	
合計	198 109	4	16	9 2	9 2	5 1	5 2		2	248 116

(平成23年2月25日現在)

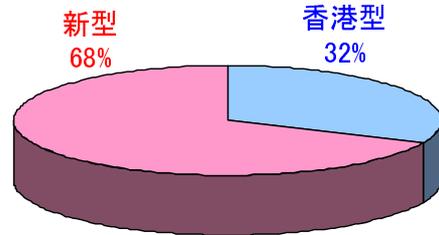


図1. 平成22年度インフルエンザウイルスの亜型比率

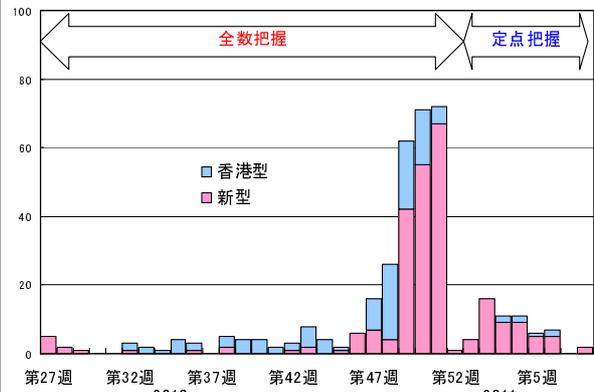


図2. 奈良県におけるインフルエンザウイルス検出状況(2010/2011)

☆ 薬剤耐性検索 (検出数/検索数)

新型ウイルス: オセルタミビル耐性 (1/182)

香港型ウイルス: アマンタジン耐性 (33/33)

病原体定点の検体からは大部分が新型インフルエンザウイルスとなっています。わずかですが B 型が検出されており、奈良市では第 2 週、第 4 週、第 5 週に、五條市では第 3 週、第 4 週、第 7 週にそれぞれ 1 例ずつ検出されています。

朝晩の気温の変化がある時期です。体調管理には十分注意してください。

(保健環境研究センターウイルスチーム 記)

奈良県ノロウイルス検出状況

平成 22 年度 感染症発生動向調査事業
平成 22 年度 食品の検査による安全確認事業

☆ 集団感染症（検出事例数）

G I 4 月：小学校（1）

11 月：小学校（1），幼稚園（1）

2 月：小学校（2）

G II 5 月：小学校（1）

6 月：特別養護老人施設（1）

11 月：保育園（5），幼稚園（2），他

12 月：小学校（1），幼稚園（1），
保育園（1），他（5）

1 月：特別養護老人施設（1）

2 月：小学校（3），老人保健施設（3）

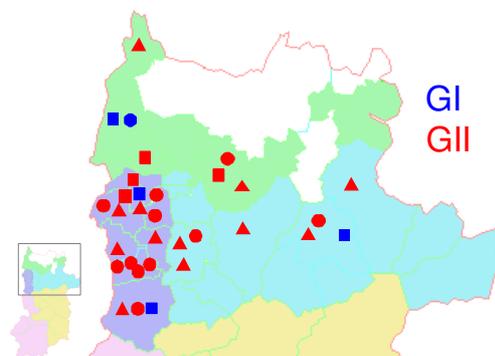


図. ノロウイルス集団発生状況

（食中毒事例を含む）
○：保育所・幼稚園、□：小学校、△：老人保健施設、他

（平成 23 年 2 月 26 日現在）

☆ 有症苦情を含む食中毒事例（検出事例数）

G II 5 月：京都府関連（2）

7 月：大阪市関連（2）

11 月：他（1）

12 月：老人福祉施設（1），他（1）

1 月：大阪市関連（1），他（1）

2 月には、小学校・老人保健施設での集団感染事例が相次ぎました（リスト参照）。発生地は、斑鳩町、葛城市、上牧町、御所市および天理市で県西部に集中しています。暖かくなると子どもが活発になり、相互に接触の機会が増えるかもしれません。集団生活での感染を予防するために手洗い・うがいを徹底してください。

（保健環境研究センターウイルスチーム 記）